

カリフォルニアの風（5月号）

「今月を振り返って」

5月は「子どもたちを、一層元気に」という想いから、学校生活参観日、家庭教育懇談会などの学校行事、各校工夫ある交流行事を行ってきました。

4校における学校行事に、ご多用の中ご来校くださいましたこと、心から感謝申し上げます。

今月は、子どもたちが補習校に通うことに「勢いをつけるには」について考えを巡らせながら校内を歩き、子どもたちに「元気ですか？」と話し掛けて今の気持ちを聴いたり、教室を回って子ども一人ひとりを観察したりしていました。4校それぞれ、歩き、声を掛け、聴き、観察をくり返すと、その学校のよさと課題が改めて見えてきます。それらを各校でつぶやき、共有をし、課題を子どもたちのためになるよう解決するには「どんな工夫が必要だろうか」を考えています。

その答えがさっと浮かんでくるときもありますが、即座に言動には移さず、「それって、本当に子どもたちのためになることなのだろうか」と、一旦は頭の中に留め、もう一度、自分自身に問うように心がけています。言動に移そうと決めるとき、最も参考にさせていただいているのが、お家の人からのご意見やご感想で、内省できたり背中を押されたりしています。

学校生活参観日、家庭教育懇談会にお寄せいただきました一つ一つ、どんなお気持ちで書かれたものかに意識を向けて読ませていただいております。ご協力、ありがとうございました。

ご感想の中に、「聞く一方だけだった授業が、クラスでまとまりのあるものになってきた。」「受け身の授業になっていないのが良かった。」というお声がありました。

今、補習校は、これまでの「教師が主語の斉授業」から、「子どもが主語の主体的な学び、子ども同士による協働的な学び合い」へと指導観・学習観の転換を図っています。

4校からは、（先生は）「子どもたちをよく見よう、聞こうとするようになった。」「一人ひとりの発言を引き出すようになった。」「考える時間をつくるようになった。」の3つについてご感想を幾つかいただきました。先生方が、新たな学びの実現に向けて取り組んでくださっていることに感謝の想いをもちます。一方、「基本的な漢字の音読ができていない。」けど、「漢字の読み方などを分かる子が教えている場面があり、それが自然でした。」ですが、「自分で読めるようになって練習してくるといいですね。」との課題もお知らせいただきました。「家庭学習の進め方」「宿題の内容」は、現在の学校課題です。先生方には、子ども一人ひとりをよく見ていただいたうえでの、もう一工夫をお願いし、子どもたちには、忍耐強く宿題をこなすこと、集中して家庭学習に取り組むことの大切さを伝え、やる気にさせなければならないと考えています。

それらのアクションプランの実践は来月に、と考えています。

明日からの6月には、「特別プログラム」「体育的行事」の学校行事を計画し、子どもたち一人ひとりのよさの発揮や教科を越えた多角的な学び、言語活動がなされることを期待しています。

それとともに、「教科学習」に粘り強く取り組む子どもたちであってほしいと願っています。